

釧路南ロータリークラブ会報

第33回 例会報告 2015.3.13 通算1576回

・点 鐘 長倉会長

・結 婚 祝

奈良 清成会員 H8.3.16 (19年目)

・ロ - タリ - ソング

「我等の生業」



ソングリーダー 佐藤 了会員

・会 長 挨拶



皆さん、こんにちは。

今日は、3月13日の金曜です。

今週の水曜が3月11日で東日本大震災のあった日から4年が過ぎました。

日本中のあちこちで防災関連のイベントが開催されていたようです。

この大震災は、勿論自然災害ですが、一部では人災と思われるような事もあったようです。

それは、事業所等で震災のより津波が来ることが想定され、マニュアルにも避難する事となっているにも関わらず、避難させずに被災したり、一回目の津波が小さかったので家が心配で見に行って被災したりしている人が大勢いたようです。

こういう時だからこそ、改めて震災、自然災害が起こったらどうしたらいいのか考えてみなければなら

・入 会 式

新入会員 上畑 雅則君 (S39.6.9生)

株ベストプランナー代表取締役 損害保険



バッジ贈呈

ないのかと思います。

また、東日本大震災では、就業中に被災された方々はもちろん通常通り仕事に従事されていればですが、労災の認定になっているようです。

労災は、業務中であり業務に起因していることが認定の条件ですので、震災は業務に起因しているとの判断という事となります。

という事は、経営側とすると業務中に震災に遇い従業員が被災すると、地震に対しての備え、避難経路、方法、そういったマニュアルがあるかどうかそういった事が問われて労災認定になった場合は、民事訴訟に発展する場合も在りえる状況となっております。この道東地区も500年間隔地震がすでに400年を過ぎ、残すところ100年の間には震度6クラスの地震が起こると想定されています。東日本大震災の影響によりもっと早く地震が起こる可能性も学会により発表されております。そういう意味でもこういう機会に是非防災について考えていただき大震災が起こってもクラブ会員が減らないに充分注意してほしいと思います。

・幹事報告



今週の幹事報告は特にございませぬ。

・委員会報告

親睦委員会

- ・本日のニコニコ献金

奈良 清成会員 結婚祝として

・本日のプログラム

「ゴミ環境問題を考える」

担当 環境青少年委員会

◆上川原会員



『 割り箸リサイクル 』

私たち日本人は、食事の時に箸を使います。日本で使っている箸の大部分は、木から作られます。世界で箸を使うのは、日本のほか、韓国、北朝鮮、中国、ベトナムなどで、東南アジアでは、めん類を食べるときだけ箸を使うところが多いようです。

日本の食文化に箸はかかせないものですが、ふだん自宅ではだいたい「自分の塗り箸」が決まっていて、食器と同様、洗って使います。

しかし、外食やお弁当を買うときにはだいたい、使い捨ての割り箸が添えられ、一度使って、捨てられています。

この日本独自といわれる使い切りの割り箸は、約300-400年前の江戸時代に、蕎麦屋が衛生上優れているとして使い始めたそうです。

今では1年間に約250億膳の割り箸が使われており、人口1人あたり1年におよそ200膳を使っている計算になります。年間250億膳も生産されている「わりばし」。その総材木量は46万平方メートル強。延べ床面積40坪の住宅が1万8千500戸も建てられるのです。「割り箸は、森林破壊であり、使い捨て文化の象徴だ！」と、日本の割り箸への批判も多い一方で、日本の中でも割り箸をめぐるさまざまな動きが出てきています。ひとつは、割り箸の原材料に着目して、森林を破壊するのではなく、森林を守るために役立つ割り箸を作ろう、という取り組みです。

日本で現在使われている割り箸の約96%は、外国産です。80年代後半から輸入が急増し、98%が中国、そのほかはインドネシアなどの東南アジアや南米のチリなどからです。増して、国産の割り箸の生産量は激減しました。

国産の割り箸は、主に丸太から柱を作るときに出る端材を使います。これは、木を「最後まで使い切る」もったいない精神で作られており、廃棄物となる端材を活かす取り組みです。

もうひとつは、使い終わった割り箸を捨てないで、紙やパーティクルボードにリサイクルする動きです。

そこで王子製紙は割り箸を紙にリサイクルしています。

日本で初めて1992年に「使用済みの割り箸を紙の原料にする」取り組みを始めたのは王子製紙米子工場です。

原料である木材チップに混ぜて、回収したり送られてきた使用済み割り箸を紙の原料として使っています。もともと箸には神の力が宿っていると考えられており、食べ終わってその効力を失った箸はもう

使わないものだったのだ、という説もあります。

昔は、捨てるでもそのまま土に還っていたかもしれませんが、今はごみになります。焼却にせよ、埋め立てにせよ、地球へ悪影響を与えてしまいます。

しかし、捨てるに活かせば、パーティクルボードや紙として、よみがえります。割り箸3膳ではがき1枚、100膳で週刊誌1冊分の紙に、現在日本で使っている年間250億膳の割り箸をすべて紙にすると、1億8000万箱のティッシュボックスになる計算です。捨てるで燃やしてしまえば一回限りの資源です。家庭、レストラン、蕎麦屋、社員食堂、学校食堂などで、「いただきます」でパチッと割られ、「ごちそうさま」でポイツと捨てられていた「わりばし」。たった1回使っただけで「ごみ」として燃やされていた「わりばし」。ごみ処理工場で燃やす費用が全国で年間3億7千万円もかかっているのです。

「わりばし」を回収して再生することによって、「ごみを減量」し、「焼却処理費用を削減」するとともに「二酸化炭素放出による地球温暖化を抑制」に効果を上げ、廃棄木質資源を有効活用することによって、地球の森林の荒廃を防止しております。皆様も割り箸リサイクルしてみませんか？それと「マイ箸」を持ち歩き限りある資源を守っていきましょう



・次回のプログラム

3月20日（金）

「職場訪問例会」移動例会

会場 マテック釧路支店 12:30～

担当：職業奉仕委員会

・点 鐘 長倉会長
今週の会報担当：奈良清成会員